

価格.comトレンドニュース 2009年7月22日配信

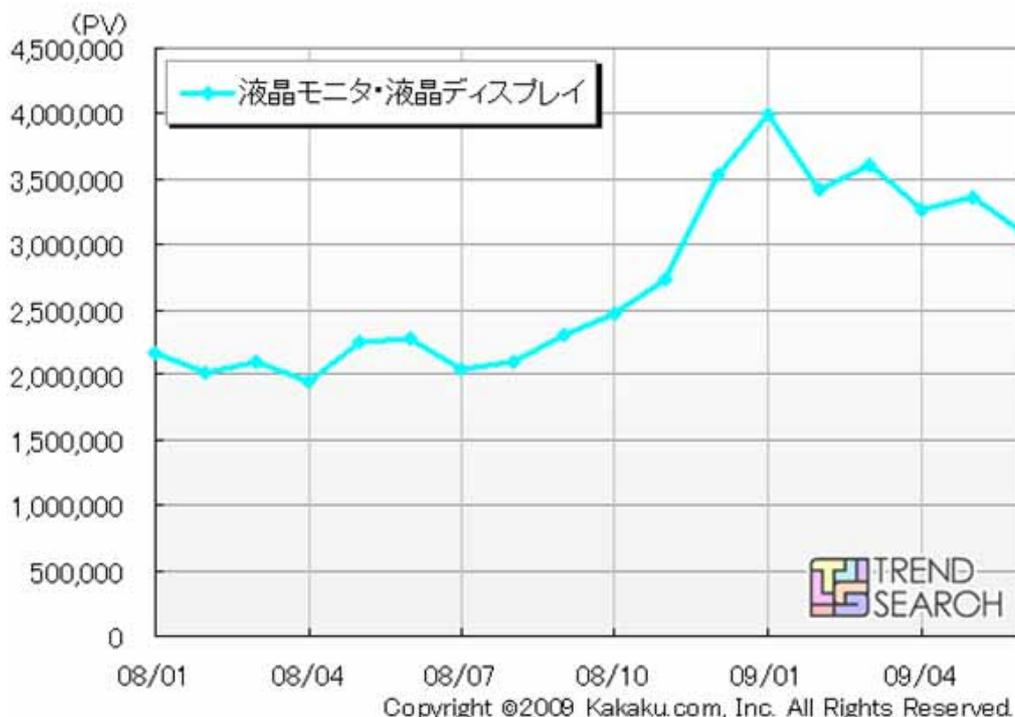
低価格競争が激化する液晶ディスプレイ市場、
2万円以下で買えるフルハイビジョン対応製品が人気を牽引
<http://kakaku.com/trendnews/weekly/articles/0907/60.html>

月間約1900万人が利用する購買支援サイト『価格.com』に蓄積される、アクセスデータや価格情報などを集計・分析した、レポートサイト『Trend News : <http://kakaku.com/trendnews/>』より、価格.comトレンドニュースとして、不定期でお届けします。
今回は、パソコン周辺機器としてもっともよく使われる「液晶ディスプレイ」について、最近のユーザー動向やトレンドをレポートします。

液晶ディスプレイの人気に拍車をかける 2万円以下のフルハイビジョン対応液晶ディスプレイ

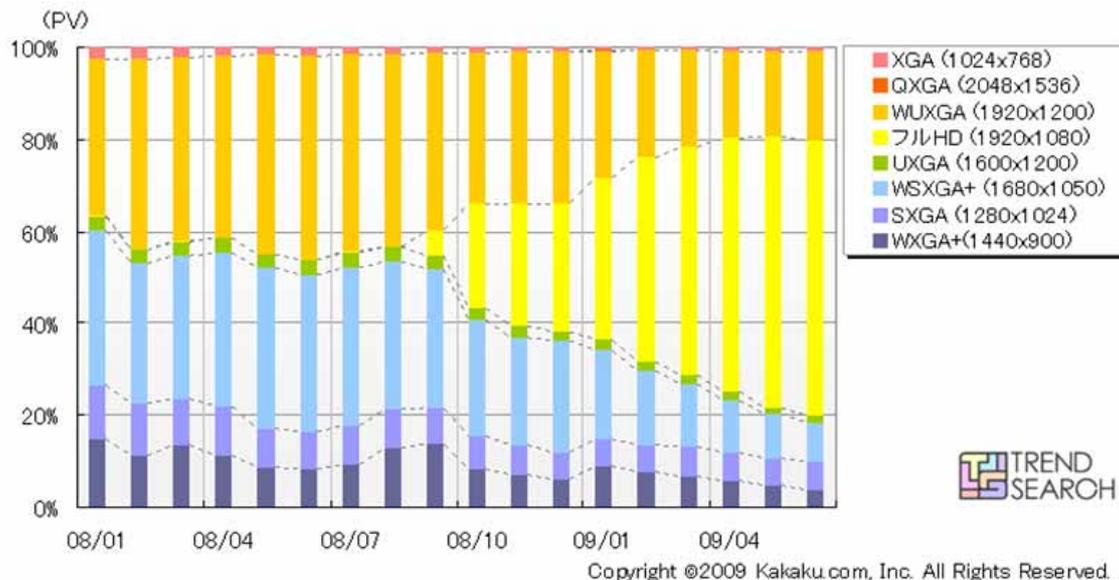
このところ、液晶ディスプレイにちょっとした異変が起こっている。
液晶ディスプレイといえば、パソコンの周辺機器としてはもっともよく使われるもの。それだけに常に一定の需要はあるのだが、図1を見ればわかるように、昨年2008年の夏以降カテゴリの総PVが急激に伸びており、2009年1月のピーク時には、昨年対比でほぼ2倍という大幅なPV増となったのだ。2009年1月のピーク以降、PV数は徐々に落ちてきているが、それでも直近の2009年6月でも昨年比1.5倍ほどの高いPVを保っており、これが一時的なブームではないことを表している。

【図1 液晶モニタ・液晶ディスプレイのPV数推移】



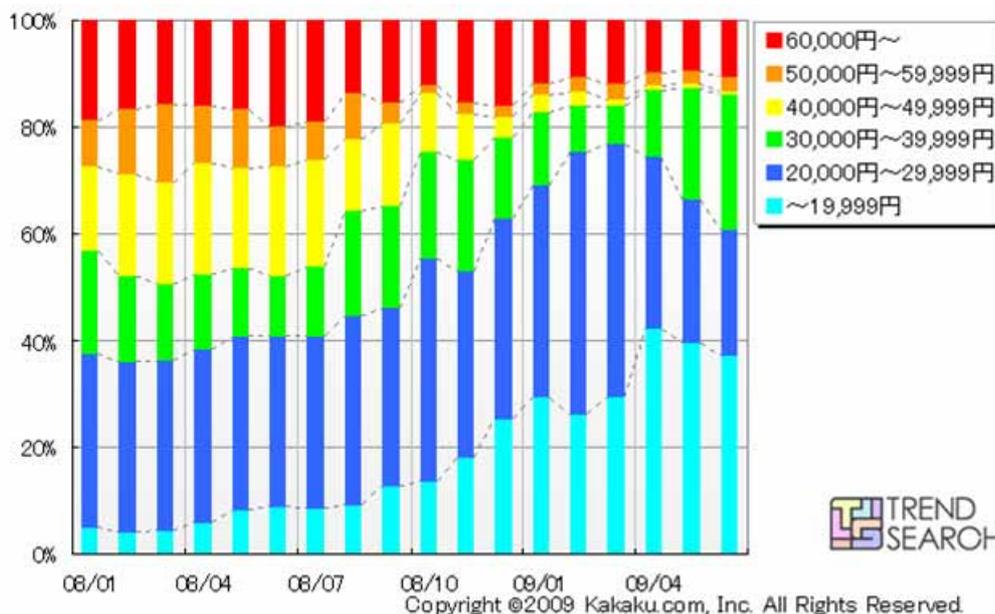
この人気の大きな理由となっているのは、昨年 2008 年の夏以降、「フルハイビジョン対応」(1920x1080 ドットの解像度)の低価格な液晶ディスプレイが増加したことだ。図 2 は、価格.com の液晶モニタ・液晶ディスプレイカテゴリにおける、解像度別の PV シェアである。これを見ると、フルハイビジョン(以下、フル HD)対応の液晶ディスプレイの割合が、2008 年 9 月くらいから急激に増え始め、直近の 2009 年 6 月では、シェアにして 60%を占めるに至っていることが見て取れる。ここまで急激に特定の解像度の製品が増えるというのは過去にも例がない。いかにフル HD の需要が急激に高まっているかがよくわかるだろう。

【図 2 液晶モニタ・液晶ディスプレイの解像度別 PV 数シェア】



この流れを、別の切り口で見たのが図 3 だ。これは、価格.com の液晶モニタ・液晶ディスプレイカテゴリにおける価格帯別の PV シェアを表したものだが、これを見ると、2008 年 9 月以降、2 万円以下の低価格帯のシェアが急激に伸びているのがわかる。上に示した図 2 と合わせて考えると、2 万円未満という安い価格をつけたフル HD 液晶ディスプレイが大幅に増加しているということだ。このことが、今の液晶ディスプレイの人気に拍車をかけているのである

【図 3 液晶モニタ・液晶ディスプレイの売れ筋価格帯シェア】



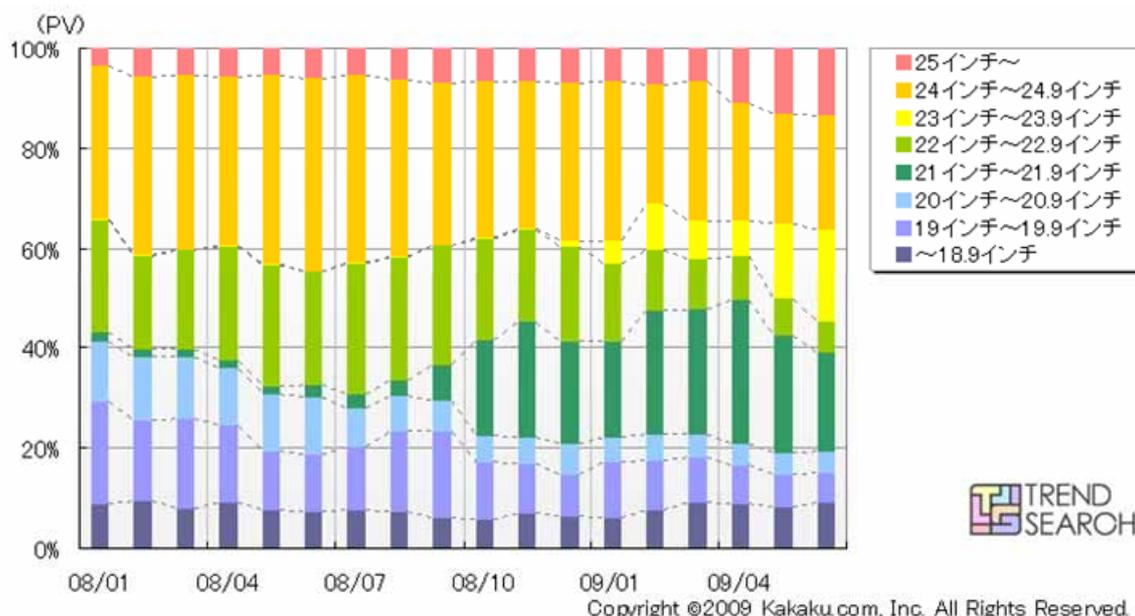
PC用ディスプレイの縦横比は「16:9」へ。 サイズも価格もワンランクシフトダウン

図4は、価格.comの液晶モニタ・液晶ディスプレイカテゴリにおける、液晶サイズごとのPVシェアである。これを見ると、2008年7月くらいから、22インチから21インチクラスへのシフトダウンが見られる。また、2009年1月くらいから24インチから23インチクラスへのシフトダウンも見られる。

こうしたシフトダウンは、パソコン向けの液晶ディスプレイの縦横比が、伝統的な「16:10」から「16:9」へと変化しているために起こったものだ。

図2で見たように、液晶ディスプレイの解像度は、「WUXGA」(1920×1200ドット)から、「フルHD」(1920×1080ドット)へとシフトしてきている。つまり、パソコン用のワイドディスプレイが伝統的に採用してきた「16:10」の縦横比から、液晶テレビなどで用いられる「16:9」の縦横比にシフトしてきたということだ。横幅が変わらずに、縦幅がやや小さくなったことで、液晶パネルのサイズは0.5インチ程度小型化する。この液晶のサイズダウンによって、液晶パネル自体のコストダウンが起こり、図3で見たような液晶ディスプレイの低価格化につながったのだ。

【図4 液晶モニタ・液晶ディスプレイのモニタサイズ別PV数シェア】

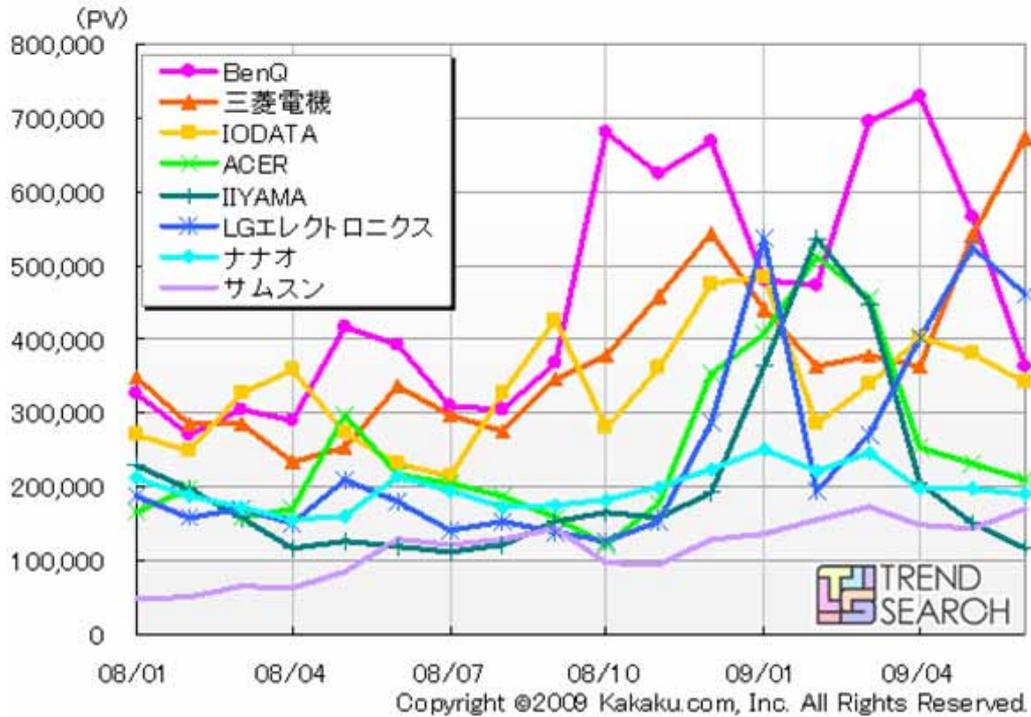


2万円以下で購入可能なフルHD液晶の人気は今後も続く

図5は、価格.comの液晶モニタ・液晶ディスプレイカテゴリにおける、メーカーごとのPVシェアの推移である。これを見ると、2008年9月以降起こったフルHD対応液晶のブームは、まずBenQ、ACER、LGなどの海外ブランド、あるいはそれらのメーカーのOEMブランドであるアイ・オー・データ機器やIIYAMAによって引き起こされたことがわかる。また、国内ブランドの三菱電機も、液晶テレビと同等の動画表示性能を持った「VISEO」という高級シリーズや、2万円を切る23インチクラスのフルHD液晶ディスプレイなどが人気を集めており、大健闘している。

このように、海外勢、国内勢合わせて、多くのメーカーが縦横比16:9の、低価格フルHD液晶ディスプレイ市場に参入しているわけだが、先述したように、すでに23インチクラスでも2万円を切る低価格モデルが出るなど、低価格競争は一段と激しくなっている。ここまで価格が安くなれば、当然ながらユーザー側も購入しやすくなる。液晶ディスプレイの買い換え用途以外にも、「プレイステーション3」などの高解像度ゲーム機や、ブルーレイプレーヤー、HDビデオカメラなどの製品をつなぐマルチメディアモニターとしてもこれらのフルHDディスプレイのニーズは高まっており、今後もこのクラスの液晶ディスプレイ人気はしばらく続くことが予想される。

【図5 液晶モニタ・液晶ディスプレイのメーカー別 PV 数推移】



過去のアーカイブはこちらから。

<http://kakaku.com/trendnews/>

【Trend News について】

購買における国内最大級の比較検討メディアである『価格.com』に蓄積される膨大な各種データを独自分析することで、消費者が製品やサービス購買に至るまでの“比較検討段階”の最新動向を把握することが可能になると考え、『Trend News』を開始しました。今後も引き続き、サイトに蓄積されたアクセスデータや価格情報などを集計・分析し、消費者の最新動向をニュース形式でお届けします。

【価格.com データ】(2009年6月末現在)

月間利用者 1,883 万人、月間ページビュー 6 億 9,028 万 PV、累計クチコミ件数約 980 万件。

【本件に関するお問い合わせ先】

株式会社カカコム 広報担当：甲斐 内山

Tel : 03-5805-7511 mailto : pr@kakaku.com